



# CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway  
日本クリニカルパス学会

No.  
32

発行日  
2014年10月10日

in 大阪

## 2014 年度クリニカルパス教育 セミナー(大阪)に参加して

2014.7.26

松波総合病院 リハビリテーション技術室  
佐藤麻美

2014 年度クリニカルパス教育セミナー(大阪)に参加させていただきました。今回は「クリニカルパスを役立てよう!広めよう!~実践ノウハウ~2014」がテーマでした。

私はパス初心者として、初めてパスセミナーへ参加させていただき、パス運用の難しさや重要性について理解を深めることができました。

松永高志先生の「院内パス活動の進め方-前向きに、活動的に、他職種で、温かい組織作り-」のご講演の中で、「作成・運用に関わりが薄い部署は何をする?」というテーマがありました。私はリハビリ科という立場として、日々疑問を抱いていたことであり、とても参考になりました。専門性を活かしたパスの導入や見直し、また専門性に関わらず、自らが委員会やパス大会に参加し、学びながら活動を推進できる立場であるということが改めて理解できました。当院でもクリニカルパス委員会が発足されており、医師・看護師・コメディカルと他職種で構成されています。2ヵ月に1度、院内パス大会も開催されています。今回実践的な取り組みを学んだので、院内パス委員会の一員として、積極的に他職種とチームワークをとっていきたく



思います。

また、下村裕見子先生の「地域包括ケア時代における地域連携クリニカルパスの明日(あした)」のご講演の中で、実際の症例を基に地域連携パスの重要性を学ぶことができました。急性期から回復期への情報共有はあるものの、回復期から生活期への情報提供が行われていない、または必要な情報・知りたい情報提供がなされていないという現状があることを改めて実感しました。当院でも、急性期から回復期を経て在宅復帰される方に対して、地域連携パスが運用されています。しかし数日後・数ヵ月後に再入院になるケースもあり、情報共有としてのパスが、どのくらい上手く運用されているのかと疑問に感じます。周辺病院・関連機関と密に情報共有ができる体制を取ることで、パスの有効性の向上が期待できると思いました。

今回のパスセミナーでは、クリニカルパスの基本から、すぐに臨床で使える実践を学ぶことができました。パス初心者として、このセミナーに参加して、パスについての距

- ▶ 2014 年度クリニカルパス教育セミナー（大阪）に参加して
- 2014 年度クリニカルパス教育セミナー（東京）に参加して
- リレーエッセイ第 26 回

離を縮めることができました。また、パス学会にも参加し、さらに学びたい意欲が湧いてきました。今回学んだことを活かして、院内パス活動の推進に努めていきたいと思っています。



in 東京

## 2014 年度クリニカルパス教育 セミナー（東京）に参加して

2014.8.9

相模原協同病院  
松永七枝

日本クリニカルパス学会主催のクリニカルパス教育セミナー東京会場に参加させていただきました。当院は、約 400 床の急性期病院です。今後電子カルテを導入予定ですが、現在は指示はオーダーングで行い、紙でのパス運用を行っています。今回のセミナーでは、4つのテーマについて講演がありましたが、全て興味深いものでした。まず一つ目は、昨年当院でのパス合宿に講演に来て頂きました村木先生の「クリニカルパスを“本当に”使いこなそう！実践編」でした。PDCA サイクルを回すことは重要だと私自身も認識していました。しかし、PDCA サイクルを回すにはしっかりとしたパスを作らないと回らない。そのためには、アウトカムをしっかりと設定すること、記録をきちんと書くこと、そして有効なデータを取ること。記録として残さなければいけないことは何か、バリエーション分析のために必要なデータは何かを考えて、漏れのないパスの記録用紙を考えていかなければと改めて思いました。

次に電カルパスについての話でした。電子カルテになる

とデータの 2 次利用ができ、バリエーション分析が簡単に出来ると考えていましたが、どこのベンダーも厳しいという話でした。しかし、どのコードのどのバリエーションが〇%の人に発生したということがやっとできるようになったとの話でした。また、電子カルテになったとしても、パスの作成は紙で行い、修正して出来上がったものをパス専任が電子カルテに入力していくという方法がよいとのことでした。

3 演題目は、院内パス活動についてですが、当院でのパス委員会活動も 10 年が経過しています。委員会の活動内容としてはほぼ同じ内容でした。話の中で、望ましいパス委員会活動という話があり、パス委員会と他の委員会との連携の話があり、私自身も今後の課題と考えています。また、有意義なパス大会のためにというところでは、当院でのパス大会の見直しも必要な時期に来ていると感じました。

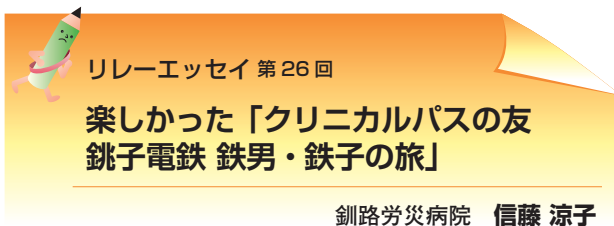
最後に、「地域包括ケア時代における地域連携パスの明日（あした）」というテーマでの講演では、医療制度改革から見てくる地域連携パスの今後の在り方として、さらに幅広い領域にわたる連携体制作りが必要と言われていました。まさにこれからの時代を考えての話であり、非常に





興味がありました。医療機能、役割分担がなされていくので、さらなる多職種との連携、またその連携を担う人材の育成が必要と言われていました。また、地域住民への教育も必要とのことでした。これからの地域医療連携のキーワードは『つなぐ』。地域の医療介護資源を「つなぎあわせる」ということ。人々が自分にできることをして、患者を支えていくという、これからの地域連携パスの活動について話を聞くことができました。有難うございました。

● ● ● ● ●



リレーエッセイ 第26回  
**楽しかった「クリニカルパスの友  
 銚子電鉄 鉄男・鉄子の旅」**  
 銚路労災病院 信藤 涼子

皆さん、こんにちは。前号「ラベンダー事件」本当に楽しすぎました。あの夜、ロマンチックなカップルのお邪魔をしました信藤です。

1年前、東京労災病院に転勤し、都会暮らしを満喫していた3月、院長室に呼ばれました。「あなたはどちらの出身で？宮城県？では北国は慣れてますね」の言葉に「？」作り笑顔返すのみ。そして、「おめでとうございます。銚路労災の副部長ですよ」の言葉に「ありがとうございます」と、頭をペコリと下げながら、床に向かって「銚路ってどこ？北海道はわかるけど…」。北海道は、高校の修学旅行と、札幌でのパス学会の2回だけ、旅行でも訪れたことがなかったのです。3月末雪の中引越越し、最初は戸惑いもありましたが、最近は少しずつ仕事や生活にも慣れて、何とかやっています。

31年前、鹿島労災病院に就職したのですが（歳がバレる）、鹿島労災病院といえば、私のパスの始まり！クリニカルパス委員となり、何をどうしたら？と悩み、学会に入会しメーリングリストに質問等していた私にあるお誘いが届きました。利根川を渡り20分程の国保旭中央病院 松永高志先生から「千葉県・茨城県のこの地域で一緒にパスの勉強をしましょう」。最初は違う名前の会でしたが、「鹿島・香取・海匝クリニカルパス研究会」（通称 KKK パス研究会）、私が初めてパスのことを人前でお話したのも、この会です。KKK パス研究会は、松永先生と私が代表世話人となり、勉強会や、毎年1回先生方をお呼びしての研修会を開催しています。松永先生、お誘いいただき本当に感謝しています。

7月18日のKKK パス研究会は、四国がんセンターの船田千秋さんに特別講演をお願いしました。私も銚路から参加しました。今回の参加者は100人を超え、関心の高さを感じました。その後の懇親会も楽しかったのですが、さらにお楽しみは翌日の「クリニカルパスの友 銚子電鉄 鉄男鉄子の旅」。旭中央病院のパス委員の方（チーム旭）が、翌日の観光までプランニングしてくれました。私の友達も参加させていただき、これが予想以上に楽しい旅でしたので、ご紹介します。

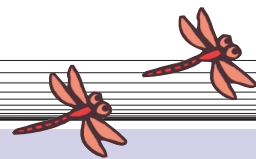
朝、ホテルに車でお迎えが来て、旭駅でチーム旭のメンバーと合流し、総武本線の電車で銚子駅へ。銚子駅からとてもレトロな銚子電鉄に乗りました。乗車券購入の前にまず車掌さんに「鯛焼き」を注文し、車掌さんがどこかに連絡。その後、全員分の1日乗車券を購入、車掌さんは忙しいのですが絶えず笑顔です。あつという間に観音駅に到着し、なぜか松永先生がホームを走り、車掌さんも全力疾走、松永先生が鯛焼きの箱を持って戻って来ました。あんこたっぷり美味しい鯛焼きを車内でほおばり、電車は犬吠駅に到着。1日乗車券のサービスで、銚子名物「濡れ煎餅」を1枚ずつもらい、甘いあんこの後はしょっぱい煎餅でお口直し。そこから徒歩で犬吠埼灯台へ。「暑い」「昇りは辛い」と言いながら、灯台の上の展望台から広くきれいな太平洋を眺めました。ここで高所恐怖症のパスパンマン（誰でしょう？）の顔色と様子が怪しくありましたが、下に降りると無事に回復し安心しました。灯台の下で記念撮影、海辺を散策し、蛇に遭遇し走って逃げましたが、時間通りに銚子電鉄へ乗車し銚子駅へ戻り、「いわし料理」を堪能しました。次にお土産店で「醤油ソフト」を食べる予定でしたが、皆さん満腹で食べられず、代わりにお土産をたくさん買い込みました。そして、船田さんを銚子駅で見送り、楽しい旅を終えました。素晴らしいプランニングは勿論、ご同行いただいたチーム旭の皆様へ感謝です。

さて次は、学会やセミナーでもご活躍されている総合病院国保旭中央病院 松永高志先生に、日頃の感謝を込めてバトンを渡します。



信藤 涼子さん（最前列右）

事務局より



## 第15回 日本クリニカルパス学会学術集会

会期：平成26年11月14日（金）・15日（土）

会場：福井県あわら温泉

グランディア芳泉（福井県あわら市舟津43-26）

清風荘（福井県あわら市温泉3丁目）

まつや千千（福井県あわら市舟津31-24）

美松（福井県あわら市舟津26-10）

テーマ：『パスでつなごう！患者と医療者の心』

会長：勝尾信一（福井総合病院 副院長）

プログラム：特別講演、理事長講演、会長講演、教育講演、教育セミナー、論文の書き方セミナー、BOMセミナー、シンポジウム、パネルディスカッション、トークセッション、会長企画パネルディスカッション、一般演題（口演・ポスター）、クリニカルパス展示、など

事前参加申込期間：

平成26年5月1日（木）～10月17日（金）

参加費：事前登録費：8,000円

当日参加費：10,000円

全員懇親会：11月14日（金）19：00～（予定）

会場となる4施設（グランディア芳泉・清風荘・まつや千千・美松）に宿泊する参加者全員で、それぞれの施設の大広間にて懇親会を行います。宿泊申し込みいただいた際の1泊2食付きの料金以外に懇親会参加費は徴収致しません。是非、4施設のいずれかに宿泊して懇親会をお楽しみください。

※学術集会の詳細に関しては、<http://www.f-gh.jp/jscp15/> をご覧ください。



## 日本クリニカルパス学会資格認定制度のご案内

日本クリニカルパス学会では、資格認定制度を発足させました。

資格は、パス認定士・パス指導者・パス上級指導者の3段階制で、平成25年度より教育研修を開始し、第1回の資格認定は平成28年度に行う予定です。

詳細に関しては、日本クリニカルパス学会ホームページ [http://www.jscp.gr.jp/shikaku\\_nintei/index.html](http://www.jscp.gr.jp/shikaku_nintei/index.html) をご覧ください。